

はじめに

新居浜市における「別子銅山」は、ひとつの鉱山の歴史にとどまらず、本市発展の礎であり、鉱山経営で培われた技術、百年先の未来までを見通した取り組み、都市計画における考えなど、近代化産業遺産として現在まで本市のなかで脈々と受け継がれており、未来への鉱脈となっております。

今ではその地で、鉱山経営がなされていたとは思えないほどに、よみがえった緑なす山々は、世界規模の環境教育の場となっており、また、「東洋のマチュピチュ」として多くの観光客に訪れていただいている端出場・東平ゾーンは、国内屈指の産業遺産観光の場として脚光を浴びております。

本市では、第五次新居浜市長期総合計画の将来都市像として

「一あかがねのまち、笑顔輝く一産業・環境共生都市」を掲げておりますが、まさにその骨格をなすのが、別子銅山近代化産業遺産です。

この整備計画書では、本市の南北約20キロメートルにわたり展開されている別子銅山近代化産業遺産について、今後の保存活用方針・整備方針を示し、重要拠点については個別の基本方針を立てております。

今後、この計画の内容にもとづき、別子銅山近代化産業遺産を活かしたまちづくりの更なる充実を図っていきたいと考えておりますので、今後とも各界各層の皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

平成24年3月

新居浜市長 佐々木 龍